野津幌

札幌市立上野幌中学校
学校だより第７号
令和８年 11 月 16 日

☆★チーム担任制アンケートの結果と、学校の今後の取組について☆★

本校では、「生徒の主体性を育む教育の充実」を目指す取り組みの一環として、今年度より「チーム担任制」を導入しました。このたび、前期の取組の成果と課題を把握し、今後のより良い学校運営に活かすため、アンケート調査を実施しました。貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。皆様からいただいたアンケート結果の分析をご報告いたします。

１．チーム担任制導入のねらいと目指す姿

チーム担任制は、従来の「１人の学級担任が学級の全般を担う体制」から「学年所属の複数の教員が全生徒を見守る体制」へと転換する取組です。

制度のねらいは次の通りです。

① 多角的な視点による生徒理解

複数の教員がそれぞれの視点で生徒の変化を捉え、適切な声掛けができるようにすること。

② 生徒の主体性の伸長

教員の指示を待つのではなく、自ら考え、行動したり相談したりできる力を養うこと。

③ 充実した相談体制の構築

生徒が状況や悩みに応じて、柔軟かつ迅速に相談を受け止められる体制を整えること。

２．アンケート結果から見えた成果と課題

今回は、全学年の生徒、保護者、教職員を対象にアンケートを行いました。

生徒向けの設問は選択式・自由記述式、保護者向け、教職員向けの設問は自由記述式です。

生徒アンケート　選択式の設問についての集計結果

肯定的な回答が多かった設問

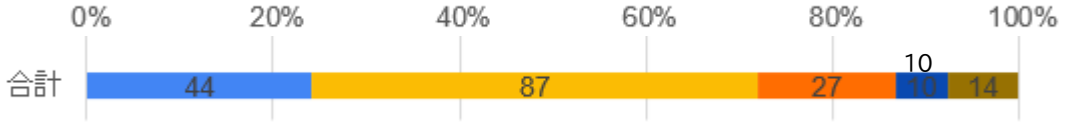
「①制度の意図の理解」「③先生からの多様なアドバイス」「⑤見守られている実感」については、７割前後の生徒が肯定的に受け止めており、複数の教員による関わりの増加が実感されています。相談相手を自由に選択できることで、生徒自身の視点が広がったという意見もありました。しかし、その自由度の高さが困り感につながっている生徒も一定数いることがわかりました。

肯定的な回答が少なかった設問

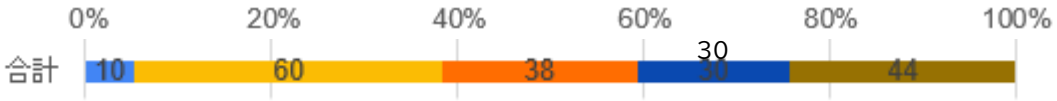
「②主体的な行動へのつながり」「⑥学級の雰囲気」については、肯定的な評価が４割弱にとどまりました。生徒の主体性を育み、生徒が自分自身の成長を実感するには、継続した取組が必要です。引き続き、チーム担任制を軸として教育活動全体で生徒が主体性を発揮できるような働きかけをしていきたいと考えています。

また、学級の雰囲気については、他の設問と比較して「わからない」と回答した割合が多くなりました。この結果から、学級担任制かチーム担任制かが学級の雰囲気に大きな影響を与えるものではないと捉えています。

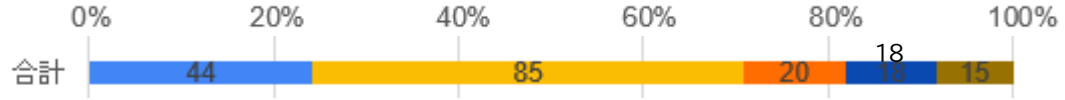
① 自分は、チーム担任制の意図を理解している。



② 自分は、チーム担任制により、主体的に動くことができるようになった。



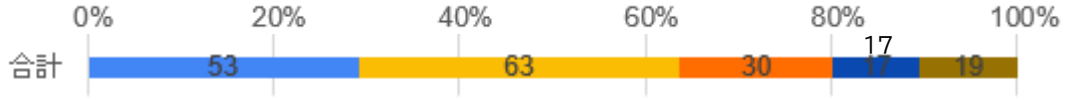
③ 自分は、チーム担任制により、色々な先生の意見やアドバイスを聞くことができるようになった。



④ チーム担任制により、自分のことを多角的に理解してもらえていると感じる機会が増えた。



⑤ 自分は、チーム担任制により、多くの先生が見守ってくれていると感じる。



⑥ 自分は、チーム担任制により、学級の雰囲気が良くなったと感じる。



⑦ チーム担任制により体制が大きく変化したが、自分は先生たちの連携がとれていると感じる。



グラフの左側から

（そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない・わからない）

生徒アンケート　自由記述式の設問

特に伝えたいこと、困っていることや要望について 45 件の回答がありました。

多くの先生と接点を持てることへの良さを感じている生徒がいる一方で、先生ごとのルールの違いや相談相手を選択することについての戸惑いの声もあげられています。回答の一部をご紹介します。

＜肯定的な評価・メリット＞

・自分のことを見守っている人がいるのが伝わる。
・新鮮な感じがする。
・以前は担任の先生に頼りきっていたが、MT が週や３日ごとに代わるため、色々な先生に相談をしやすくなった。
・色々な先生が僕たちをサポートしてくれているんだなと前よりも強く感じることができた。
・先生たちの間で連携をうまくとれている状態が続いてほしい。

＜課題、困っていること＞

・もっと先生たちを知る機会があるといい。
・チーム担任制のメリットを感じられない。
・学級の議題として決めたことに対して、先生によって考えが違ったり、ルールが少しずつ変わってしまうことがある。
・チーム担任制をやっても意味がないと感じる。

保護者アンケート　自由記述式の設問

意見、要望について 84 件の回答がありました。

複数の教員で見守ることへの安心感や窓口の存在が評価されている一方で、指導のばらつきや学校への相談の際の担当者が分かりにくいという不安が示されています。回答の一部をご紹介します。

＜肯定的な評価・メリット＞

・チームで様々な先生に関わっていただけることで、子どもの価値観や考え方の幅が広がってきているように感じます。
・窓口の先生が固定されているので、面談なども一貫されていて安心でした。
・担任の先生が１人ではなく、チームでみてくれるので、今までより安心感があります。
・これからも、何かあったときにすぐに親子共々相談できる体制づくりを保持していただけると、とても助かります。
・固定の先生ではないことで、色々な意見を聞くことができ、おもしろいと本人は感じているようです。
・毎日複数の先生に関わっていただくことができて、こどもにとっていい環境だと思います。
・様々な先生と関わりが持てるようになることで、質問がしやすくなったり萎縮しにくくなったりと、学習面でも生活面でもよいと感じています。
・従来では、教科担任とは授業でしか接点がなかったと思いますが、多くの先生方とのコミュニケーションが増えて、勉強でわからないことがあったときにも聞きに行きやすくなったのではないかと思います。

＜課題、困っていること＞

・学校に連絡が必要なときに、現時点でどの先生に確認、伝えればよいのか慣れるまでは少し戸惑いを感じました。
・窓口の先生としか話をしていないので、チーム担任制の良さはわからない。
・各先生方の考え方が統一されていないように感じています。
・担任がいないのは不安です。
・一人ひとりの生徒のことをちゃんと見れているのか不安があります。
・臨機応変に、というのが苦手な子にとっては、先生が代わることについていけないのでは、と思います。

教職員アンケート　自由記述式の設問

普段心がけていること、生徒の変化についてアンケートをとりました。回答の一部をご紹介します。

・学年全体を意識した声掛け、支援ができているように感じる。
・学級の様子などを情報共有し、学年の目指す姿に向かってどのように支援をしていったらよいか、という視点で考えられている。
・生徒からの相談に対して、どうしたい？という投げかけから始めるように意識している。
・生徒が、なんでも先生に聞くという動きが減ったと思う。かわりに、生徒が取り組もうとしていることに対する「相談」に立ち会うことが多くなった。
・生徒が「〇〇先生がいないから、△△先生に聞いてみよう」と、柔軟に対応する姿が見られた。
・生徒からの相談の仕方が、どうしたらいいですか？という質問ではなくなったように感じる。

３．アンケート結果を受けて

多くのご意見をいただき、チーム担任制の良さをさらに伸ばし、改善を重ねてよりよいものにしていきたいとの思いを強く持ちました。生徒が主体性を発揮できるよう、これから特に大切にしたいことを２つ挙げます。

①　生徒や保護者が「誰に相談してもよい」と思える環境づくり

→ 定期的に行う教育相談や懇談は窓口が担当することを基本としています。それを、窓口の先生がいつも見守ってくれているという安心感につなげていきます。それと同時に、教師間の情報共有を綿密に行うことで、困ったときには誰でも力になってくれると生徒が感じられるような環境を整えます。

② 生徒自身が学級のルールや方法を考えるという意識づけ

→ ルールや方法は、与えられてやってみるところから始まります。そこから、やっているうちに改善点に気が付く、話し合ってよりよい方法を見付ける、一から自分たちで決める、と成長するにつれて自分たちでできることがどんどん増えていきます。教師は生徒がその階段を一歩ずつ登れるような働きかけを目指します。また、それを話し合う機会をつくるような工夫も継続していきます。

生徒の意識改革だけでなく、教職員が「生徒が決めたことを大切にする」という意識をもって接することも大切だと考えています。